

ALAK 年次大会参加報告書

高垣俊之（尾道大学）

2009年12月5日、Foreign Language Education Policy in Korean Context というテーマの下、第31回 ALAK（韓国応用言語学会）年次大会がソウルの Chung-Ang 大学で開催された。風が強く雪が時折降るあいにくの天候であったが、当日はおよそ300人の出席者が集まり、中国、カタル、マレーシアなどの国からの参加者も見られた。

大会プログラムは、午前3件の基調講演、午後約40件の発表、そして閉会前に1件の基調講演という内容であった。9時半にメイン会場のオーディトリウムにて ALAK の Kyung-Whan Cha 会長から開会の挨拶があった後、すぐに基調講演へと移った。

最初に登壇したのは Amy Tsui 氏（The University of Hong Kong）で、Internationalization of Higher Education and Language Policy という演題であった。高等教育の国際化は、教授言語の問題にとどまらず、教室外における学生間のインターアクションも視野に入れて考えなければならないことを、香港の事例と社会学における'space' という概念を用いて論じられた。グローバル化が進みつつある日本の大学を展望する上でも、示唆に富む講演であった。次は、文部官僚の Young Han Keum 氏による The Direction and Task of English Education Policy in Korea という講演が韓国語で行われた。三番目の講演者は Jerry Gebhard 氏（Indiana University of Pennsylvania）で、Redesigning English Teacher Education Program to Meet the Needs of Pre-service English Teachers という演題であった。現在の教員養成プログラムでは、韓国政府が推進するコミュニケーション重視の英語教育を担う教員を輩出することが難しい点を指摘した後、学生が高い英語運用能力を身につけることと英語の指導力を高めることの重要性に言及し、しかるべき教員養成プログラムを大学が提供すべきであると Gebhard 氏は力説された。わが国の教員養成に関わる問題に通ずる部分が多く、傾聴に値する意義深い内容であった。

午後の部は12時20分から始まり、SLA, Reading/Writing, CALL/Language Testing, Language Policy/Language Program, Teacher Development/ELT, Korean as a Foreign Language/English as an International Language の6領域に分かれ、16時まで最新の研究成果が発表された。また、それと並行して、CALL Fair とポスターセッションも催された。

筆者は、オーディトリウムが会場となっている Language Policy/Language Program のセッションで、JACET 代表として Special Speech を行った。English Education Policy in Japan and French Education Policy in Canada というタイトルで12時20分から1時まで、同時期に策定された日本とカナダの行動計画を比較しながら考察を加えた。続く15分間の質疑応答では、Tsui 氏を含む三人から手が上がり、それぞれの質問に答えることで、講演の拙さを多少なりとも補うことができたのは幸いであった。

講演後は同じ会場にとどまり、三つの発表に耳を傾けた。まず、Robert Fouser 氏（Seoul

National University) による The Place of “Culture” in Japanese Language Education Policy since 1945 では、日本の「国語」と「外国語」の学習指導要領における「文化」の位置づけを通時的に分析し、その時々¹の社会的背景にリンクしていることが示された。次に、Jaebum Kim 氏 (International Graduate School of English) の A Balanced Language Policy and English Education in Korea では、英語教育は他の外国語教育とのバランスを踏まえつつ慎重に検討されるべきであるという主張がなされた。Jeong-Ah Lee 氏 (Sungkyunkwan University) の Korean Elementary School Teachers’ Attitudes Toward the English Language Education Policy and Practice は、韓国の小学校教師が抱く英語教育への理想と現実との乖離を調査した興味深い研究であった。

Hung-Soo Lee 氏 (Chonnam National University) の韓国語による基調講演が 5 時過ぎに終わると、女性電子バイオリン奏者によるパフォーマンスが披露され、引き続き各種賞の授与式と抽選会が盛大に行われた。会場が一気に華やぎ、和やかになった中で、会長から閉会の辞が述べられ、無事大会の幕を閉じることとなった。

一日をあらためて振り返ってみると、“Conference should be academic, social and entertaining.” という Cha 会長の言葉をいたるところで実感することができた中身の濃い大会であった。あえて惜しむべき点を挙げるとすれば、まず大会のハイライトである基調講演の二つが韓国語で行われ理解できなかったこと、第二に他の concurrent session にも多くの魅力的な発表があったにもかかわらず出席することが叶わなかったこと、第三にこの素晴らしい大会に日本人の発表者（そしておそらく出席者）が筆者一人しかいなかったことであった。

いずれにせよ、現地では、大会の切り盛りで忙しい最中、会長をはじめとする ALAK 関係者の皆様から、前日の pre-conference dinner から post-conference dinner に至るまで温かくきめ細かいもてなしを受けたことに対し、深くお礼を申し上げなければならない。このご恩に報いることができるように、なんらかの形で今後とも ALAK と関わっていければと願っている次第であるが、個人レベルでは二人の韓国人研究者から共同研究のお誘いを受けていることを申し添えておく。

最後になったが、JACET 入会 20 年目という節目にこのような機会を与えてくださった JACET 関係者各位に心より感謝を申し上げます。両学会の学術友好関係が今後ますます発展していきますことを切に祈りつつ、本報告を終えることにする。